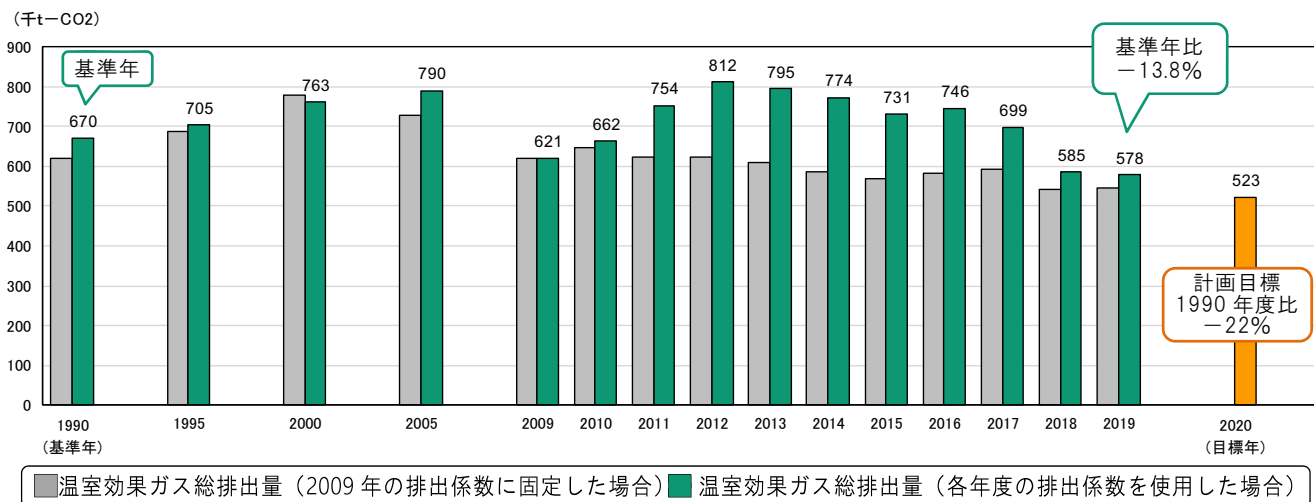


宝塚市内の温室効果ガス排出量について（2019年度速報値※）

※温室効果ガスの排出量を迅速に把握し、実効性の高い施策を実施するため、可能な限り最新の数値を用いて2019年度実績を速報値として公表しています。なお、各種統計データが公表されていない部分は暫定的に2018年度データを用いて算定しています。そのため、確定した統計データに基づいて算定した場合に差異が生じる可能性があります。

1 温室効果ガス排出量の推移

2019年度の温室効果ガス排出量：57万8千トン
（基準年比-13.8%）



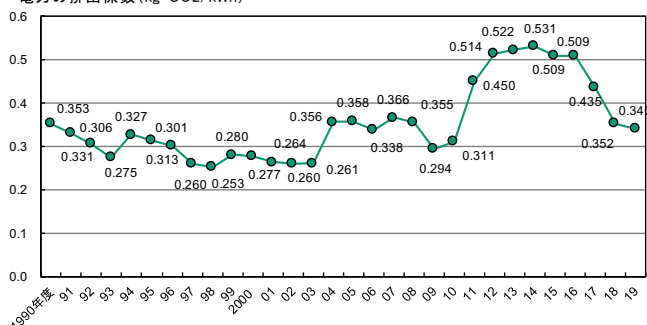
電力の排出係数とは

電力の排出係数とは、各電力事業者が一定の電力を作り出す際にどれだけ二酸化炭素（CO2）を排出したかを表す指標です。火力発電は化石燃料を燃やして発電するため、火力発電の割合が高くなると排出係数は高くなります。

私たちの取り組みとしては排出係数に関わらず、普段の省エネ行動により、電気使用量を削減していくことが大事です。

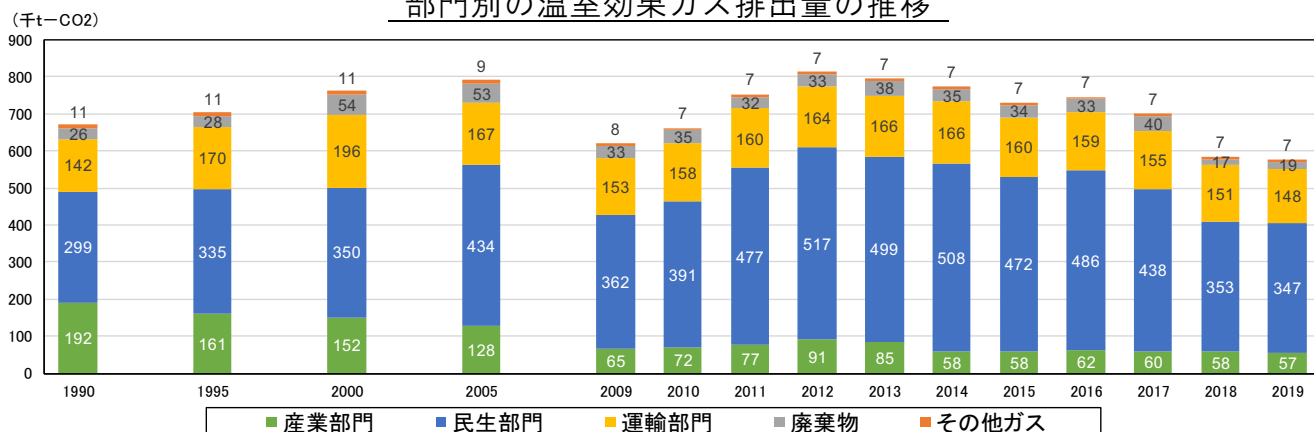


電力の排出係数（kg-CO2/kWh）

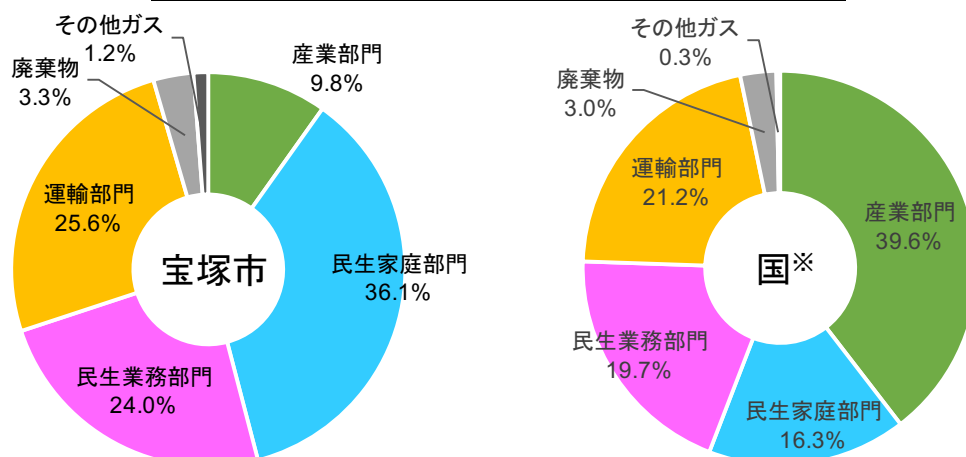


2 部門別の排出量

部門別の温室効果ガス排出量の推移



温室効果ガス排出量の構成割合（2019年度）



※国は2019年度の温室効果ガス排出量(速報値)をもとに算出

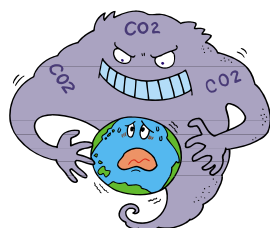
宝塚市の2019年度（速報値）の温室効果ガスの構成割合をみると、民生家庭部門の割合が全体の約36%を占めており、国と比べて高いのが特徴です。

部門別の排出量では基準年（1990年度）と比べると、民生家庭部門で19.4%増加、民生業務部門で11.2%増加、運輸部門で4.2%増加となっています。

一方、産業部門では基準年から70.3%減少、廃棄物で26.9%減少、その他ガスで36.4%減少しています。

部門別の温室効果ガス排出量

部門	1990年度 (基準年)	2019年度	
		排出量	基準年比
産業部門	192	57	70.3%減少
民生家庭部門	175	209	19.4%増加
民生業務部門	125	139	11.2%増加
運輸部門	142	148	4.2%増加
廃棄物	26	19	26.9%減少
その他ガス	11	7	36.4%減少



主要4部門排出量の増減状況（1990年度を100とした場合の推移）

